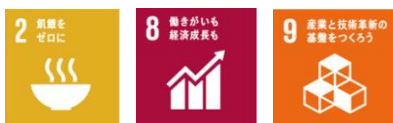


普及現地情報

発信年月日:令和8年(2026年)4月22日
所属名:高島農産普及課
番号:H26001
発信者名:三溝、山下、吉岡



ブドウの省力的なビニル被覆方法をモデル農家で実施

高島市のブドウ農家A氏を令和7年度からモデル農家として位置付けて支援しています。今般、省力的かつ県農業技術振興センター開発のブドウ簡易棚に適したビニルの被覆方法について考案し、4月13日に試行したところ、一人で順調にビニルを被覆することができました。

高島市は令和6年度からブドウを推進品目に位置付けており、関係機関一体となって栽培面積の拡大に取り組んだところ、2年間で新たに9名の方がブドウを植栽されました。特に、県農業技術振興センターが開発したブドウ簡易棚は、自主施工可能であり一般的なブドウ棚より安価で、小面積から取り組むことができるため、9名のうち8名が導入されています(合計3,230㎡)。

当課は令和6年度にブドウを植栽された(簡易棚1,000㎡)A氏を令和7年度からモデル農家として位置付けて重点的に支援しており、簡易棚の設置やブドウの植栽、植栽後の1年目の管理など個別巡回指導を中心に行ってきました。その成果としてブドウは順調に生育し、今年度は初収穫が見込まれています。また、ブドウを植栽した9名は農業未経験な方が多いことから、簡易棚において初心者でも省力的にビニルを被覆できる方法が必要だと感じていました。

そこで、当課はA氏と意見交換しながら考案したビニル被覆方法を、4月13日に試行しました。その結果、見直すべき点はありましたが、一人で概ね順調にビニルを被覆することができました。

今後、当課はブドウ簡易棚において省力的かつ1~2人でできるブドウのビニル被覆方法をマニュアル化し、管内のブドウ生産者に普及させていきます。



ブドウのビニル被覆の状況